

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成26年度 第1回短期大学会議教育改革ICT運営委員会 議事概要

I. 日 時 平成26年4月28日(月) 18:00~20:00

場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 戸高委員長、松井委員、豊田委員、小棹委員
(事務局 井端事務局長、平田職員)

III. 検討内容

今回は主に、短期大学就業力コンソーシアム実施に向けた確認と26年度の短期大学会議について主に検討した。

1. 短期大学就業力コンソーシアムについて

(1) コンソーシアム実施スケジュール

コンソーシアムの参加校は16校あり、アンケート回答 Web の作成と担当者用のアカウント通知などを5月15日までに行い、参加校は卒業生へのアンケート協力依頼をハガキやメール等で行い、6月1日よりアンケート開始して6月末を締切とし、7月には共通項目について集計を行うスケジュールである旨を事務局より報告し、了承された。

(2) アンケート項目の一部修正

- ① アンケート項目のうち、参加校より意見のあった <業種>にある「保育所」は「福祉」からはずし、「教育関係(学校、幼稚園)」の後に、「保育所」として新たに項目を設け、卒業生が選択しやすいように修正した。
- ② 卒後に就職した業種や職種以外に、在学中の所属学科(分野)も把握するため、学科識別番号を必須で追加することにした。

(3) 短期大学会議での報告

9月開催の短期大学会議で、コンソーシアムの実施結果報告をどのように行うべきか、以下のとおり意見交換を行った。

- ・共通項目の掲載について、PRとしてある程度、非参加短大にも見せられるとよい。
- ・アンケート結果をどのように活用したのかを翌年に調査して、非参加短大にも示さないと参加が増えないのではないか。
- ・中教審の短期大学WGの調査研究(参考資料2)では、企業に調査した結果と授業とのマッチングを行っている。
- ・コンソーシアムでは卒業生に直接に調査した結果であるか、それと教育とのマッチングが図れるのかどうか。
- ・私情協での共通項目の集計、分析の方向性を決めておかないと、各短期大学での教育とのマッチングを図ってもらうような方向に進まないのではないか。
- ・業種別と短大の分野とを合わせて、傾向を見ることはできるのではないか。
- ・共通項目の集計結果と何を比較して、短大会議で提示できるのか。
- ・大学としての分析結果をもっていないと、7月に集計結果を出してもマッチングは図れないのではないか。そのために、いくつかの短大に頼んで、マッチングしたものを9月の会議に提示できるとよい。
- ・活用の本音は、就職活動支援の結果と報告書作成の数値であるが、アンケートを教育改善に活用している例があれば、紹介してもらいたい。
- ・参加短大あわせての数値との乖離をみて、改善を図るきっかけを作ることはできるのではないか。
- ・質問9の自由記述は、テキストマイニングで傾向はつかめるので、集計結果として主なものを紹介することはできる。
- ・回収率をあげてもらおうよう参加校には最低2割の回答を協力してもらおうよう努力してほしい旨を伝える。

- ・各短大がどのように利用しようとしているのか、具体的に提示してもらう。

以上の意見を踏まえて、短期大学会議では昨年度同様に卒業生アンケートの活用イメージを示すために、既に卒業生アンケートを教育の振り返りとして既に活用しており、さらにコンソーシアムのアンケート結果をどのように活用しているのかを参加校から紹介いただくことを確認した。

2. 短期大学会議について

25年度会議の参加者アンケートでは、具体的な事例紹介をもう少し長く聞きたいという意見や、意見交換を十分に行いたいという意見があったため、26年度会議では、前半に能動的な学修に取り組んでいる事例を2件紹介して時間に、後半の全体討議では、コンソーシアムの概要説明の他に、参加校における卒業生アンケートの活用法、コンソーシアムでのアンケート活用予定など紹介を通じて、コンソーシアム実施報告とPRを行うことにした。また、開催日と場所は、9月4日（木）13：00-16：00にアルカディア市ヶ谷（私学会館）とすることにした。

また、プログラム案として以下の通り検討し、事例紹介の候補となっている各短期大学には事務局より打診することにした。

<プログラム案>

- ・開会挨拶 5分
- ・アクティブ・ラーニングへの取り組み
 - 事例紹介 静岡英和学院大学短期大学部 事例40分・質疑10分
 - 聖徳大学短期大学部 40分・質疑10分
- 休憩 10分
- ・全体討議
 - ① コンソーシアム実施報告 10分
 - ② 活用事例 戸板女子短期大学 20分
 - ・卒業生アンケートを卒後のポートフォリオとして、振り返りにどう活用しているか。
 - ・今回のコンソーシアムのアンケート結果をどう活用しようとしているのか。
 - ③ 討議 35分

3. 次回委員会

次回委員会は5月23日または26日に開催し、主に短期大学会議のプログラムを作成することにした。